

ダイオキシシン1%未満

GES、排水ろ過装置開発

水処理装置メーカーのジー・イー・エス(GES、大阪市)はダイオキシシンを含んだ排水をろ過する装置を開発したと発表。電気分解により

分子構造を分解した上で、触媒を使って吸着処理する。ダイオキシシンの含有率は1%未満まで下がり、通常の排水として処理できるようになる。

機器は1台5000万円程度で販売する。セラミック製の電極を使って電気を流して、ダイオキシシンを二酸化炭素、食塩、水に分解する。

中堅繊維メーカーの工場に設置して実験した。環境基準の600倍近い毒性を持つ排水を基準値の1%未満までろ過でき

その後、熱に強いセラミック製の触媒に通して排水をろ過する。触媒はセ氏900度程度で加熱して吸着物を焼き切ること

たという。結果を受け、同社の工場でも正式に採用が決まった。ダイオキシシンを含む排水は業者へ処分を委託する企業が多い。ただ、処理費用は1立方メートルあたり5万円以上かかることも多く、負担が重かった。機器を導入すれば処理コストを委託時より低減できるといふ。